

平成30年4月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成30年4月24日 (火)		
2 開会及び閉会	開会		13時55分
	閉会		15時10分
3 出席委員	教 育 長	菅 野 和 良	
	委 員	塩 田 澄 子	
	委 員	藤 原 佳 代 子	
	委 員	石 井 希 典	
	委 員	妹 尾 直 人	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	安 田 充 年	教育次長	三 宅 泰 司
次長 (教育総務部長兼務)	吉 實 達 男	学校教育部長	岡 林 敏 隆
生涯学習部長	重 松 浩 二 郎	参事 (教育企画総務課長事務取扱)	村 田 守
参事 (生涯学習課長事務取扱)	石 井 敏 郎	参事 (文化財課長事務取扱)	乗 岡 実
教育企画総務課企画調整担当課長	高 坂 仁 美	教育企画総務課課長補佐	岡 孝 之
教育給与課長	神 原 徹	教育給与課課長代理	松 島 哲 也
学校施設課長	板 野 正 博	教職員課長	奥 橋 健 介
就学課長	東 谷 徹	指導課長	松 岡 和 俊
指導課課長代理	怒 田 眞 由 美	指導課教育支援担当課長	服 部 道 明
指導課人権教育担当課長	半 澤 秀 行	保健体育課長	山 田 裕 史
生涯学習課課長代理	田 中 光 彦	生涯学習課公民館振興担当課長	今 村 正 樹
教育研究研修センター所長	藤 原 陽 子	中央図書館長	宮 本 嘉 彦
オリエント美術館長	八 田 健 郎	岡山っ子育成局子育て支援部 地域子育て支援課長	村 松 弥 生
岡山っ子育成局子育て支援部 地域子育て支援課課長補佐	黒 瀬 格	岡山っ子育成局保育・幼児教育部 幼保運営課長	疋 田 洋 一
岡山っ子育成局保育・幼児教育部 幼保運営課幼児教育専門監	山 内 徳 子		
事務局 (教育企画総務課課長補佐)	生 田 裕 宣	事務局 (教育企画総務課主任)	大 西 正 記

5 議題及び結果		
第 14 号議案	第 2 期岡山市教育振興基本計画平成 3 0 年度アクションプランの決 定について	原案可決
6 教育長等の報告 [平成 3 0 年 3 月 1 0 日 (土) ~平成 3 0 年 4 月 1 3 日 (金)]		
3/16	子どもの貧困を考える市民フォーラム	こども福祉課 指導課
3/19	教職員の働き方改革に係る「ワーキンググループ会議」	教育給与課
3/24~3/27	岡山市子ども会インリーダー研修会	地域子育て支援課
2/24~29	岡山市子ども会ジュニアリーダー研修会	地域子育て支援課
3/31	岡山市ジュニアオーケストラ「第 2 0 回記念スプリングコンサート」	地域子育て支援課
4/ 8	岡山市立灘崎公民館移転記念式	生涯学習課
石井委員 教育支援担当課長	<p>○ 1 番の子どもの貧困を考える市民フォーラムについてだが、昨今相対的貧困というのは非常にテーマとして重要になってきていると思うので、実施内容をお伺いできればと思う。</p> <p>○ 事後であるが、チラシを見ていただいたほうがわかりやすいと思う。 (資料配付)</p> <p>岡山市と岡山市教育委員会が主催で実施した。直接の担当課は岡山っ子育成局のこども福祉課と、指導課が担当させていただき、市民フォーラムを催した。参加者は 2 2 4 名、多かったのは学校関係者、それから保育園、幼稚園、認定こども園の関係者、なお、ほかにも子ども食堂に興味があり実際に運営されている方々等が参加をされていたように思う。</p> <p>前半は名古屋大学大学院の中嶋哲彦教授、この方は藤井聡太さんの通っている附属中・高の校長先生である。内容は日本の置かれている状況を世界と比較して、日本の相対的貧困の現状、課題をご指摘いただいた。日本の子どものいる世帯の就職率が非常に高く、逆に仕事をしてない家庭は非常に少ない、しかしながら相対的貧困の家庭は実は世界で見ると多い、要は格差が広がりつつある、それが顕著にあらわれているのがこの子どもの貧困に関わる部分であるというような指摘があった。そのあたりが印象に残っている。</p> <p>後半は川崎医療福祉大学の直島先生をコーディネーターに、そこに書いてある 4 名のパネリストの方々が登壇をされて各 1 0 分間ずつそれぞれの取組の報告があった。教育委員会関係では、佐藤信治さん。子ども相談主事で、子ども相談主事がどのような活動をしているのか、貧困に直接かかわった場合にどのような手だてをしているのかといったようなことの報告があった。まとめとしては、それぞれが支援を行う中で連携して支援の輪を広げていこうというようなまとめになったと聞いている。</p> <p>最後に、参加者に事後アンケートをとった結果、貧困に対する理解が深まったと回答された方が 9 0 . 4 %、貧困を断ち切るについて自分で考えようと思ったと答えられた方が 8 7 . 3 %ということでフォーラムを開いた意味は非常に高かったかと感じている。</p>	
石井委員 教育支援担当課長	<p>○ 市民フォーラムとして市民全体で考えていく必要があるということで、開催されているフォーラムだが、今お話しの中で子ども食堂というのもお話に出てきた。最近よくテレビとかで拝見するようになったが、岡山市で何かそういった状況とかわかれば教えていただきたい。</p> <p>○ 幾つか我々も承知をしている子ども食堂がある。先ほど名前を挙げた佐藤信</p>	

<p>石井委員 藤原委員</p>	<p>治先生は元教員の方なのだが、今子ども相談主事を務めておられる傍らで、子ども食堂についても支援されている。東区のほうでされている。中区にも、そういうところがあると聞いている。</p>
<p>教育支援担当課長</p>	<p>○ ありがとうございます。</p> <p>○ 同じところで、昨今貧富の差が学力にも出てきているし、この前大学の先生の講演を聞いていたら寿命にも貧困等の豊かさとか比例しているなど、そういう格差が出てきているのは本当大変なことだと思う。特に子どもを扱う部署としては行政ではこういうフォーラムをつくることも大事だと思うが、就学援助などの制度とは別途何か動いているようなことがあるのか。</p>
<p>藤原委員</p>	<p>○ 実は教育長も本部員なのだが、市長をトップとする子どもの貧困対策会議が庁内である。そこで局を超えて横断的にいろんな局から取り組んでいるものの中で、子どもの貧困対策につながっていくような、直接的なのは先ほどおっしゃっていただいた就学援助の関係とと思っているのだが、そのほかにも例えば先ほどの子ども相談主事の配置など、いろいろなことが子どもの貧困対策につながっていくことなので、そこを総合的に岡山市としてどうやっていくのかということ本部会議等でもんでいただき、各課がそれを実際に実施していくというような体制に一昨年度からなっている。</p>
<p>塩田委員</p>	<p>○ 大きな組織になっているというので頼もしいと思う。おそらく点々で動いていくとなかなかうまくつながらないと思うので、組織として動くようなことが現場の子どもにも支えになる。私たちも少しだけNPOなどで支えることはできているのだが、それでもやはりピンポイントである。大きくというわけにはいけないので、ぜひその本部の会議の存在がうまく活用されたらいいなと思った。</p>
<p>教育支援担当課長</p>	<p>○ 私も同じ項であるが、多くの方がお集まりいただき、関心が高いということがよくわかったのだが、こういったフォーラムをきっかけに何かこれを広げていくというようなことを考えているのか。</p>
<p>塩田委員 教育支援担当課長</p>	<p>○ このフォーラムにも実際に子ども食堂の方がパネリストで参加されているので、そういうところを手伝いたいとか、自分で立ち上げるにはどうすればいいとか、そういうところで担当課、担当局が関わるなど、恐らく今後広がりが出てくるのではないかなと思っている。実際に市民協働のほうに子ども食堂立ち上げたいという方から問い合わせがあったと聞いた。そういう広がり在今后出てくるのではないかと考えている。</p>
<p>藤原委員 教育長</p>	<p>○ このフォーラムは毎年開催していくのか。</p> <p>○ いいえ、昨年度1回開催したが、今年度は実は予算化ができていなかったと聞いている。今年度は別の例えば教職員や保育士、いろいろな職種の方に対しての研修を進めていくということに柱を立て、もう一步進めていくと聞いている。</p>
<p>藤原委員 教育給与課長</p>	<p>○ そのほかはないか。</p> <p>○ 2番目のこの働き方改革の項であるが、昨年度末これをされた直後に概要は教えていただいたのだが、今年度も年度当初校長会などで事務局から働き方改革に類する説明をしたのか。</p>
<p>藤原委員 教育給与課長</p>	<p>○ 直接的にワーキンググループ会議云々という話をとりあげたわけではないが、とにかく働き方改革が今、喫緊の課題であって、その意識という面では校長先生方が中心になって学校の現場でいろいろと既に力を発揮していただいていることとは思うのだが、一層お願いをしたいということは申し上げているところである。</p> <p>○ 現場のほうから何か工夫しているとか、学校教育関係のところでの情報があれば教えていただきたい。</p>

<p>藤原委員</p> <p>教育長 全委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今のところ、この学校でこういうものがあるというのは、まだ少し子どもがアンテナを十分張り切れてないということもあって聞こえてきていないのだが、そういったアンテナは広げてよい取組については全市的に広げていけばいいと考えているので、これからはそういうアンテナを広げていくというような作業もしていきたいと考えている。 ○ ぜひそうして欲しいと思う。ただ、学校はやったら良いと思うことはやろうとしていると思うので、そのあたりの感覚が、みんながいろいろな工夫しているということがわかればもう少し改善の余地があると考えられるのではないかなと思うので、ぜひワーキンググループの会議の結果もともかくだが、流れが数字に反映されるように、事務局のほうでも発信など工夫してほしいと思う。 ○ よろしいか。 ○ 〈なし〉
<p>7 議事の概要</p>	
<p>教育長 教育長 教育長 全委員 教育長 全委員 教育長</p> <p>教育長</p> <p>教育長 教育企画総務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ただ今から4月岡山市教育委員会定例会を開催する。 ○ 本日の傍聴希望者はいない。 ○ 日程第1，会期は本日1日限りとしてよいか。 ○ 〈承認〉 ○ 日程第2，3月臨時会及び定例会の議事録に問題はないか。 ○ 〈承認〉 ○ 日程第3，事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載) ○ 次に、議事に入る前に会議の公開、非公開についてだが、本日は非公開となるものはないので、議事に入る。 ○ 日程第4，第14号議案を教育企画総務課から報告願う。 ○ 第2期岡山市教育振興基本計画平成30年度アクションプランについて説明する。アクションプランは、教育振興基本計画の施策を実現するための単年度の実施計画として位置付け、毎年度作成しているもの。 1ページをご覧いただきたい。岡山市が目指す教育について、第2期教育振興基本計画の内容から抜粋して掲載している。1段落目は岡山市が目指す子ども像について、図とともに説明している。2段落目は岡山型一貫教育と岡山市地域協働学校を2つの柱とすることについて、3段落目は全ての取組において、人権尊重の理念を大切にすることについて、そして、最後の段落ではESDの視点を生かしていくことについて記述している。 2ページをご覧いただきたい。岡山市の教育が目指す市民協働の人づくりのイメージを図で示している。一番下に示している「岡山市市民協働による自立する子どもの育成を推進する条例(岡山っ子育成条例)」の理念の実現に向け、「中学校区を単位とした学校園一貫教育(岡山型一貫教育)」という縦のつながりと「岡山市地域協働学校」という横のつながりが織りなす教育によって、自立に向かって成長する子どもを育てていくという人づくりのイメージを、学校園を中心に据えて分かりやすく表したものである。 3ページをご覧いただきたい。アクションプランについての説明のページ。 1段落目は、第2期教育振興基本計画についてと、教育大綱との関係について、2段落目はアクションプランの作成の趣旨について記述している。そして、図は5年間の基本計画の2年目に当たることを示している。3段落目は教育振興基本計画の進行管理について図とともに説明している。 4ページと5ページをご覧いただきたい。今年度実施する事業を、第2期教

育振興基本計画の政策・施策体系に基づいて整理したもの。4ページ左端にある政策1～3は、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成に係るもの。5ページ左上にある政策4は、人間関係づくりに係るものと、個別支援に係るもの、その下の政策5と6は、主体的な学びを支える教育環境の充実に係るものとなっており、政策6に地域協働学校に関する内容を位置付けている。また、それぞれの施策の右には、政策・施策を実現するために今年度実施する主な事業を示している。

新規事業は星印で示しており、

施策3-1の「全国中学校体育大会開催事業」（保健体育課）と施策4-1「教育支援アドバイザー配置事業」（指導課）、「新入学準備費支給事業」（就学課）、施策6-2「公民館Free Wi-Fi整備事業」（生涯学習課）、施策6-3「地域と学校協働活動推進事業」（生涯学習課）の5事業となっている。

また、拡充事業は◎印で示しており、施策1-1「英語教育推進事業」（指導課）、施策3-1「運動習慣定着化事業」（保健体育課）、施策4-2「共に生きる子どもを育てる障害児支援事業」（指導課）、施策5-1「部活動指導員配置事業」（保健体育課）、施策6-2「インターネット予約図書モデル事業」（中央図書館）、「連携中枢都市圏図書館相互利用」（中央図書館）の6事業となっている。

6ページと7ページをご覧いただきたい。ここには、クローズアップとして、平成30年度、特に重点的に取り組む事業について紹介している。昨年度から、事業説明を精選し、2ページで見開きになるように作成している。この見開きのページを概要版として教職員等に配付しており、忙しい中でも平成30年度の重点事業について知っていただけるようにという思いで作成している。

今年度のクローズアップは、昨年度に引き続き、教育大綱で注目している学力向上と問題行動等の防止及び解決に関する取組を二本柱として組み立てている。

一つめの柱である『学力の向上』に関しては、現状及び方針にあるように、全国学力・学習状況調査の結果は、小学校・中学校ともに上昇傾向となっている。「学力向上推進プロジェクト」等で、引き続き授業改善を推進するとともに、家庭学習の充実を図っていく。重点事業の中の、拡充の「英語教育推進事業」については、民間検定を活用した取組を中学校に拡大して実施していく。

二つめの柱である『問題行動等の防止及び解決』に関しては、これまでも問題行動の未然防止・早期解決に向け、全ての学校において、対応力の向上を目指して取り組んできた。今後は、小学校における校内の支援体制作りや教職員のさらなる対応力向上を目指し、新規に「教育支援アドバイザー配置事業」を立ち上げ、教職員に助言を行う専門家を配置していく。重点事業の中の、「心豊かな子どもの育成事業」は「はぐくむ心・あったかハート事業」の事業名を変更したもの。また、「共に生きる子どもを育てる障害児支援事業」については、看護支援員を増員し拡充して実施していく。

これらの二つの柱を支える『喫緊の課題の解決に向けての環境整備』に関しては、教職員の負担軽減、教職員の資質能力の向上、学校教育環境の充実、貧困対策、学習機会の充実などに取り組んでいく。重点事業を見ていくと、まず、「部活動指導員配置事業」は「部活動サポート事業」の事業名を変更したもの。新たに、単独での引率や指導を可能とする部活動指導員を配置し、平日の派遣回数を増加することで、教職員の負担軽減を図っていく。次に、新規の「地域と学校協働活動推進事業」については、地域と学校の双方向の「連携・協働」型の活動を推進し、学校教育環境の充実を図っていく。また、貧困対策に関し

ては、新規に「新入学準備費支給事業」を実施し、入学準備金を事前支給していく。さらに、学校以外の学習機会の充実に向けて、「インターネット予約図書モデル事業」や「連携中枢都市圏図書館相互利用」の拡充実施、「公民館Free Wi-Fi整備事業」の新規実施に取り組んでいく。

8ページをご覧いただきたい。ここからは、事業一覧を掲載している。前年度までの経緯と、事業内容、他局との連携がある事業についてはその内容について示している。他局との連携がある事業は8事業ある。

32ページをご覧いただきたい。ここからが、事業目標の一覧になっている。

事業の年度目標のうち、事業目標と施策内容とのつながりがわかりやすい指標を中心に掲載することとし、まとめて掲載している。指標については、これまで、教育委員の皆様、議会、外部評価委員から、様々な意見をいただいていた。これを踏まえ、事業目標については、第1期教育振興基本計画では主に量的な結果を基本としていたが、第2期教育振興基本計画では事業の対象者の意識や行動の変容など質的な結果を基本的な指標としていくように整理している。

最後には、参考として第2期教育振興基本計画の政策の評価指標一覧を掲載している。

説明は以上。ご審議よろしく願います。

教育長
塩田委員

- このことについて何かご質問、ご意見があるか。
- 目標値で昨年度と今年度でかなり差があるなと思っていたのが、32ページの中の施策1-2の一番上の児童・生徒のICT活用を指導することができる教員の割合が70%から80%を目標値にしているのだが、それでこちらの事業一覧の概要を見てみると、予算額が書かれていない。10%増やすということだが、どんな施策を具体的に考えて目標値を決めたのか。

指導課長

- 実質この値は28年度ということで、昨年12月ごろ文科省調査を利用することで少し時間的なずれはあるが、実態としてはこういう状況だろうというのが事実である。実際には十分手が入っていないところもあるので、この夏ごろに策定する予定の教育の情報化基本方針を策定する予定にしているが、その中で検証も含めて取組を検討して進めていきたいというふうに考えている。教育研究研修センターの研修の中で、例えばプログラミングの研修を新たに入れたい、そういう取組も入れているので、少しずつ充実を図りたいというふうに考えている。

石井委員

- 同じく評価指標のところ、32ページのところで施策1-1の英語教育推進事業の目標値は45%で、平成29年度35%からの10%アップということになっているが、45%という数字の設定の経緯を教えてください。

指導課長

- これは全国的な調査の中で統一を行っているので、全国平均等を踏まえて決めている。

学校教育部長

- 昨年度の経過もあるので、私のほうから補足をさせていただくと、32年度に60%というのを国のほうが定めている。岡山市としては、1年前倒しで重点的に取り組むということで31年度末を60%目標というふうに設定をしたものなので、年度をさかのぼっていくとこのぐらいの数字ということで設定をしている。少し厳しいというのが感想である。

石井委員

- その厳しい中でここにも記載があると思うのだが、どういった取組でその厳しさを少しでも挽回されるか、お伺いしたい。

指導課長

- 7ページをご覧いただきたい。子どもたちの英語力向上については、この英語教育推進事業の一番上に民間検定、これを活用した取組、これを中学校で拡充して実施というのが一番大きいかと思っている。昨年度モデル校で実施したのだが、今年度は全ての中学校に広げて効果があったということで進めてい

	<p>こうと。対象は中3の生徒である。中1と中2は岡山市学力アセスを実施しているの、それとあわせて子どもたちの状況をしっかり把握して、子どもたちの学習改善もあわせて先生方がそれを見てどうやって授業を改善していくかということにつなげていく。子どもたちの英語については、重点的にはそういうことである。</p>
石井委員	<p>○ 重要度もあると思うのだが、注目度は一般の方からすると非常に高いことになっているのかと感じており、かなり厳しいとは思いますが、取組が評価されて、一般の方にも取組を理解されたら良いと感じた。</p>
藤原委員	<p>○ 同じ項のところ、この前資料発表もあり、本日もたくさんの資料をいただいているのだが、民間の検定試験を活用するための手だてのようなものを何か考えておられるのか、それとも呼びかけだけなのだろうか。</p>
指導課長	<p>○ 民間検定を活用したというか、その事前と事後と、主に事後だと思うのだが、事後の活用については業者と連携しながら、いろいろな活用方法について学校に教育課程研究協議会等通じて具体的にこういう活用方法があるということは伝えていきたいと思っている。それは全国学力・学習状況調査も学力アセスの活用も要は一体となっていたものなので、学校が改善して活用して実施できる、そういうサイクルをつくるということがあると思うので、その流れの中で民間検定のほうも活用したいと思っている。</p>
藤原委員	<p>○ 4ページ、5ページの政策の柱、事業体系の、大きな4の政策のところだが、ここでは一人一人を大切に書いて、課題というところには特別支援をほうふつとされる記述はたくさんある。その特別支援の中の発達障害の子どもへの手だてが、どこのあたりが中心に書かれているのか教えてほしい。例えば知的、情緒、身体やサポートはこの施策ではわかりやすいかと思うのだが、通常学級にいる発達障害傾向の子どもたちのパーセンテージも結構ある中で一人一人を大切に、育ちを支えるということで、どこで読んだらいいのだろうか。やっておられるとは思いますが。</p>
教育支援担当課長	<p>○ 実はその施策4-2、一人一人の課題に応じたきめ細かな支援というところの1つ目に二重丸で、共に生きる子どもを育てる障害児支援事業とある。</p> <p>これを詳しく見ると、21ページになるが、ここに実はひとくくりで事業を載せている。ほかの部分は一つ一つの事業がストップ・ザ学校問題の中に入っているのを外指しして4-1の施策に載せているのだが、障害のある子どもにきめ細やかな支援というのはこの施策4-2のところの共に生きる子どもを育てる障害児支援事業というところにくっついている。例えばこの中には、特別支援教育支援員の配置をして子どもの見守りを強化していこうとか、医師や大学教員など専門家から発達障害を含む障害のある子どもへの効果的な支援について協議を行う、そのために特別支援連携協議会というのを開いていこうとか、それから「ひかりんく」の相談窓口に係ってくる課題について、これも大学の教員やドクター等々専門家に加わっていただき月2回開いているのだが、チーム会議というのを開いて、そこでいただいたアドバイスを、窓口を通して学校に返すといったようなことで支援につなげていこうと考えている。</p> <p>なお、4-1のところ、これがいわゆる生徒指導に関わる事業を並べているのだが、この中でも特に例えば共に成長し合う学級集団事業推進事業、これはhyper-QUとかASSESSに質問紙調査を使って学校や学級への適応感をはかる事業である。これは障害のある子もいない子も当然未然防止によって特別支援学級においても実施しているので、それらの検査結果をもとにお互いに仲よくできる仕組みをつくって現場の人につなげていくということで、いわゆるインクルーシブ、障害のあるなしにかかわらずともに学んでいく仕組みにという流れの中でいろんな事業を行っている。</p>

藤原委員	<p>○ よくされていることはわかるが、どこか表に少し言葉として出してあげることが安心につながるのではないかなと、この特別支援員など、実際言葉で書いてあるから、介助などいろいろなことをほうふつさせる。だから、特別支援学級にいる子どもたちが対象で、例えば発達障害傾向の子も普通に集団の中でなじめない子どもたちへの対応はわかるのだが、少し言葉として出してあげたほうがいいかなと。これだけ「ひかりんく」やまな星などが1年待ちなど何カ月待ちとかという状況がある中で、保護者の方が見られた学校現場が見たときに教育委員会が何を大事にしているかなということは、やはり言葉が特に発達障害児をわかるような言葉がどこかにあれば施策が生きてくるのかなと思う。支援員が配置されて学校が助かっているのは、もちろん事実だと思う。</p>
企画調整担当課長	<p>○ 今ご指摘いただいた点について、来年度の方向も含めて少し工夫をしていきたいと思う。</p>
藤原委員	<p>○ もう一つ、今年度になるということなのだが、1ページの最後の段落のところで先ほど課長が説明していた1ページの最後のところで、本市ではESDを推進しているという、もちろん市役所も部署としてはいまだにESDという部があって担当課もあると思うのだが、多分世の中の流れや文部科学省の流れは、もうSDGsになっていると思う。毎年見直しているアクションプランの中には、そういう潮流の中に入って精神的にはそれはESDのリボンでいいと思うのだが、目指すところの到達目標まで示されたとしたら、ここの記述はSDGsで内容的にはESDの発展で市役所の中にはその部署があるということではないかなと思うのだが、これはもうことしのことではなくて今後のことで大体世の中がもうそんなふうになってきているかなという気がするので、少しお考えくださればと思った。</p>
指導課長	<p>○ ESDとSDGs重要なラインで、国から目標も明確に出されているので、少しここは丁寧に見ながら教育委員会としてどういうふうに続けていくか、少し慎重に時間かけて研究させていただきたいと思う。</p>
石井委員	<p>○ 市民として見たときに岡山市の教育委員会と岡山県の教育委員会が独立しているという感覚が余りなくて、例えば県のほうでこういう目標があるが、そういうのをどんどん立てられる中で岡山市に住んでいる方も何となく岡山市もそうなのではないかなというふうに思ってしまうような傾向はあるのではないかなと思っている。その中であえて違うということを説明する必要がないものもあると思うのだが、岡山市は別でこうなのであるということも少し説明をする必要があるケースもあるかなとも思って、この目標設定が県は県で多分別の形で何かつられていると思うのだが、そういった何か誤解みたいなものが若干生じているケースもあるのではないかなと思うのだが、そのあたりは特に問題ないとお考えか、何か少し工夫が必要と考えられているか、意見をお伺いしたい。</p>
学校教育部長	<p>○ 一番数字がひとり歩きして、いろいろな比較をされている学力調査の結果の目標値だと思っている。県のほうは10位以内というふうな目標を掲げられており、それに向けて岡山市はどうするのかという問い合わせは過去の何年間の中で報道関係者の方とかいろいろなところからあった。</p> <p>ただ、岡山市の場合は偏差値50と全国平均をまずはクリアするところという目標設定の仕方を教育大綱の議論の中でさせていただいたという辺を、しっかりと具体的にこちらが話をしていかないと、やはりなかなかご理解をいただけないのかとは感じている。やはり岡山県の中にある自治体だから、そうなんだという見方をされるのは、これはもういたし方ない部分とは思うのだが。あとは、我々は岡山市としてはこうなのだということをしっかりと具体的に訴えていくことが必要なのではないかと感じたところである。</p>

石井委員	○ これを作成する段階では、当然県のやろうとしていることと若干相談したり連絡したりということはないという認識なのだが、そういうことか。それは必要ないと思うのだが。
三宅教育次長	○ 定期的に教育次長の会は、予算期に行っているが、数値目標までは協議していない。例えば今後、小学校で英語どうするかというようなことは情報交換したり、部活動の週2日以上休養日も一応情報交換はしたりしているが、そこでこうしてくださいということはお互いに言えていないのは事実である。
石井委員	○ 別々の組織なので、お互いがお互いを決めるということとはできないという部分か。
三宅教育次長	○ そうである。ただ、情報交換はしていこうということで、今度の5月の初めに最初の会合を持つようにしているので、またこういう事業の内容についてはお互い情報交換しようと思っている。
教育長	○ 今恐らく大きな政令市が、石井委員が指摘したところは悩んでいると思う。私は常に岡山県の中に岡山市という県ができていくんだという話をしてきたのだが、給与は市から払うから、それに伴って例えば学級の編制とか教職員の定数とか、岡山市独自に決められる。以前だと県がお金を払うのである程度従わないといけないという部分もあったのだが、今ではほとんどない。でもそうはいいいながら、先ほど話したように岡山県の中にある岡山市だから、やはり情報共有をしっかりとしていくということで、やっと去年からスタートだったから、これからまたいろいろ試行錯誤していくことだと思うのだが、採用試験も別々にしている。でもいまだに採用試験を一緒にしているところもある。そういうところも含めて、いろいろまだ研究していかないといけないところはあると思う。
藤原委員	○ 来年度の課題で、これだけ大きな流れを取り入れてきている、例えば英語教育をどうするかというのを一貫した学びの推進の中にもある。同じようにやはり道徳教育が、どこかには出てこないといけないのか。教科化になったわけだから、それをことし一年間やってみて、また今度の教科書を選定する時期にも来ていると思うので、それで何を育むかといったら難しいところがあるかもしれないが、項目としたら思いやりの心というところに行き着くのではないかと思うので、そういうのはこれだけ網羅させているのだったら、それは入れておかないといけないという気はする。まだ隠れているのかもしれないが。これは本当にダイジェストでポイントでいくのだったら教育委員会が重要視することを中心にしたらいいと思うのだが、やはり知徳体に始まり、さまざまな人間生活の中で必要なことを全部入れているわけだから、こうした研究や現場の実践が来年度以降どこかに入れてほしいなと思う。
塩田委員	○ いつもお聞きすることなのだが、このアクションプランがどこまで浸透しているかということなのだが、昨年クローズアップだけでも何か少しパンフレットみたいな形にして隅々まで行き渡るようにならないかという話は出てきたかなと思うのだが、何か改善するところはあるか。私は2月に初任者研修でアクションプランを知っている人がいるかお聞きしたのだが、知っている方もおられたのだが、浸透はしていないなという感じを受けた。やはり岡山市でそれこそ独自の採用になったら、まず一緒に岡山市の教育にかかわっていく、その入り口のところでやはり毎年クローズアップ、現状把握をした上で今年何をやっていくかということ、そういうボトムアップというか、若い方たちから植えつけていくというのがいいのではないかとそのときに思った。特に今回表紙が初任者の人たちの写真なので、せめてこの写真に写っている人たちにはアクションプランを手渡しして、写真に写っているよという初心忘るべからずということで、お渡ししてもいいのかなということを感じた。やはり施策があ

企画調整担当課長	<p>って、そして予算も入っている。こういうのを見ることによって何か自分は何々中学校の教員というのではなくて、もう岡山市の教員なのだということを自覚できて、どういうふうに使われているのかということもわかるわけだから、そして数値目標もわかるわけだから、何か当事者意識が芽生えないかと感じる。入り口としてこういうものを、初任者に手渡しで配布するというのが一つの方法なのかと思った。</p>
藤原委員	<p>○ 今いただいたご意見を、校長会でこの用紙を印刷して配布したり、学校の教職員に手渡すようにパソコン上で配布をしたりしているところであるが、さらに教育研究研修センターがさまざまな研修も持っているので、そこら辺と連携しながらいろいろな研修で周知ができるように努力して参ります。</p>
塩田委員	<p>○ 同じことで、以前も工夫の一つとして言わせてもらったことがあるのだが、一番は採用前の人に読んでほしいと思う。他の自治体で我が市の教育というので前に少し紹介した、500円を出してこの冊子を買って採用試験に臨ませるような自治体もあると聞いている。同じように例えば、ダウンロードすることも含めて、これだけ全部網羅して重要なことのめり張りもつけて説明してあるということは、岡山市の教員になるとこれがわからないと大阪や東京の教員ではないよと、岡山市らしい教員はこれを目指していくのだよというのを本当に本気で読むとしたら採用試験受ける人だと思う。当然こういう勉強をしているわけだから、それがこの自治体ではこういうふうに組み立てられているというのは勉強してもいいのかなと思う。</p> <p>ちなみにそれは広島がやっていることなので、そんなに難しいことでもないと思うから、関西のほうでもやっている。即答はいい。そういう方法もあるよと、読んでもらうためにはということである。</p>
教育長	<p>○ 基本的にホームページからダウンロードできると言っても、ダウンロードはするけど読まない。</p>
教育長	<p>○ よく言われる廊下まで来るけど教室の中に入らないというのが先にあって、校長先生がとめるというわけではないのだろうけど、どうもそれが一般の先生まではいかないというのが傾向だったと思う。今回私も校長会でそのことの話をして、管理職には管理職になろうとするための人だけのものではないのだよという、こういう考え方を話はさせてもらったのだが、いろいろな手をまた考えていきたいと思う。</p>
藤原委員	<p>○ 何かほかに、生涯学習的な面でもあれば。</p>
生涯学習課長	<p>○ 公民館の建設事業というのは今年度にも入るのか。5ページ。これは今年、も操山がもうできたから、今年度は終わりかと思ってしまったのだが。</p> <p>○ 現在未耐震、旧耐震基準の建物がまだ旭公民館、それから上道公民館があり、その辺については今年度少し検討していくということにしている。旧耐震基準の建物で耐震性がないものなので、建設等を含めて今年度検討していくことになる。</p>
安田教育次長	<p>○ 補足すると、まだ分館も残っている。地区公民館もそうだし、小学校区へ残っている分館も耐震化をしなければいけないので、予算は今回上げていないが、主なものとしては上道公民館を中心に、それプラスアルファで分館の耐震化ということでこの事業名を使わせていただいた。</p>
教育長	<p>○ 旭と上道は今のところでは耐震が無理なので、基本的にはどこかに場所を移転して新しく建てるというイメージでいる。でも、それは即今年度建てるということにはならないと思う。</p>
塩田委員	<p>○ 同じ公民館のところなのだが、30ページに公民館Free Wi-Fi整備事業とあるのだが、これは公民館全館で予定されているのか。</p>
生涯学習課長	<p>○ 公民館全館に公衆無線LANのポイントを設置するものである。</p>

安田教育次長 教育長 塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 光回線以外の回線が2箇所ある。 ○ 光回線以外の箇所は他の手立てを考えなければならない。 ○ 岡山市の持っている施設でこういったFree Wi-Fiは結構あるのか。
生涯学習課 塩田委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私が知っている限りでは、南区役所でやっている。 ○ そういったポイントができるというのが一つ売りになり、効果が出ているのかなというふうに思う。
石井委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連携中枢都市圏図書館相互利用なのだが、その連携中枢都市圏の中に総社市は入っていないので、新しく高梁市がいい図書館をつくられたのではないかなと思うのだが、そこに行きたい人というのは結構たくさんいて、最近行ったようなことはよく聞くのだが、岡山市の人はそこで本を借りて帰るわけには多分いかないと思う。本を借りられたらなおいいと思うが、それは連携中枢都市圏でないと、なかなかやはりこの事業はそういう取り組みでやっているから難しいという認識でよいか。
中央図書館長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高梁は一応岡山連携中枢都市圏のほうには入っていないが、高梁図書館も全国誰でも本を貸すということになっているので、岡山市民の方でも本を借りられるということにはなっていると聞いている。基本的には宅急便等でも返すことができる。
安田教育次長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高梁で本を借りて、県立図書館のカードを持っていれば県立図書館へ返せる。それから、TSUTAYAのカードを持っていれば借りられるという、そういう状況だから県立図書館のカードであれば結構使える。使えないところもあるのだが、だからそれと連携中枢、倉敷も確保した連携中枢の図書館の動きと岡山を核にした動きがまざり合っているというか、そういうふうな状況となっている。
藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエントと県立美術館との連携の関係で、ここも数値目標も出ているぐらいなので、今後どういう拡充を考えておられるのか、その事務事業、イベント的にもいろいろ連携の仕方もあると思うのだが。
オリエント美術館長	<ul style="list-style-type: none"> ○ここに載っている数字は半券を持っていったら相手のほうが2割引きになるということで、平成27年11月から現在までやっている事業である。そのほかは両方の学芸員が共同しての企画展を開催したり、広報は当然両館で相互にするということで、中の美術品についても館蔵品についても交換伝授してアピールしていくということである。
藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエントに特化したものが県立美術館で見られるようなイベントも考えられるわけか。
オリエント美術館長	<ul style="list-style-type: none"> ○ そうである。うちの館蔵品ということになるので、オリエントに特化した館蔵品が県立美術館のほうでも展示をさせていただくことになるかと思う。ただ、時期等については学芸員同士での話となる。
藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ そのメリットがどこにあるのか。オリエント美術館のほうではオリエントの雰囲気があるところでオリエントの収蔵品を見るのと、県立美術館に行ってみると、チケットは互換性があるようなことはできるが。
オリエント美術館長	<ul style="list-style-type: none"> ○ そうである。オリエントだけに興味がある方はうちへ来られるが、広く興味、芸術に関心がある方が県立美術館に多分行かれるというところで、オリエントの云々についても来ていただくという点でのメリットだと考えている。
藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立美術館が持っている民間の人の作品なんかも極端なことを言うとオリエントの中で展覧会、そんなことも考えているわけか。
オリエント美術館長	<ul style="list-style-type: none"> ○ そうである。ある程度のテーマを絞ってできるのであれば、それも当然交換ということなので、館蔵品についても県立美術館での展示もさせていただく。
藤原委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少し思っていた、これは地の利がなくて離れているところと離れているところ

<p>オリент美術館長 教育長 全委員 教育長 教育長</p>	<p>ろだったらリピートと言ったらおかしいが、利便性はあるかなと、あれだけの至近距離のところではその特徴があるものがいろいろ協力してするというのはよほど工夫が要るのかなと思って、ふだん思っていたので少しお聞きしてみました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 興味を持たれる対象が全く一緒ではないので、両方相互にこの辺の興味を喚起するという意味で交換展示をさせていただいている。 ○ 文言の多少修正もあるし、つけ加えたりするところもあったが、第14号議案を原案どおり可決してよいか。 ○ <承認> ○ 第14号議案を原案どおり可決する。 ○ 本日予定していた議案の審議は全て終了した。以上で、平成30年4月教育委員会定例会を閉会する。
--	---

傍聴の状況		
報 一	道 般	0名 0名